

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	河川改修事業(単独)	会計	一般会計	事業No.	564	施策順No.	41-015
		事業種別	政策・その他	予算科目	8-3-3-12-1		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課		
施策	41 災害対策の推進		事業期間	開始	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	準用河川、普通河川及び排水路						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		改修・整備必要か所数:か所	72	58	42	26	18	
	意図	水害・土砂災害の発生しない河川への改修及び降雨時等に越水しない水路への整備						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	単年度改修・整備実施か所数:か所数	14	16	26	16	20	18	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	単独河川改修事業は予定どおり4カ所、排水路整備事業は予定12カ所のところ、16カ所を地区要望カ所及び要改修現地調査を踏まえ優先順位を考慮し実施できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>1 単独河川改修事業</p> <p>2 排水路整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宅地密集地等の排水路を整備し、降雨時等による水害を未然に防止する。 ・年間に排水路を15カ所程度の整備を行う。 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	測量調査・工事施工 (1) 単独河川改修事業 要改修河川調査により改修か所を決定し施工する。 (2) 排水路整備 要整備排水路調査により整備か所を決定し施工する。	(1) 施工個所数 (2) 施工個所数	合計20カ所 (1) 4カ所 (2) 16カ所
23年度実施計画	測量調査・工事施工 (1) 単独河川改修事業 要改修河川調査により改修か所を決定し施工する。 (2) 排水路整備 要整備排水路調査により整備か所を決定し施工する。	(1) 施工個所数 (2) 施工個所数	合計18カ所 (1) 5カ所 (2) 13カ所

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (国)地域活性化・きめ細かな臨時交付金(10/10) 21→22繰越明許費6,300千円
	国庫支出金		6,300	6,300		
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		15,703	15,699	21,000		
計 (A)		22,003	21,999	21,000		
	正規職員所要時間			300		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計 (B)			1,073		
	トータルコスト A+B			23,072		

4 事業に対する市民や議会の意見

<p>・安全な市民生活のため、市民や議会より危険か所等の早期事業着手の要望が多い。</p>

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞業者、財産の災害や火災の被害を軽減する	施策の成果指標又はムツ指標	市民が災害にそなえている割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう貢献しましたか	4年間の振り返り	準用河川及び普通河川改修事業を行うことにより、未然に災害発生防止となる。また、排水路整備事業により地域住民に被害を及ぼしてきた浸水被害を防止出来る。		
	後期に向けた課題	宅地化の進行により、今まで問題としていなかった排水路の整備が必要となってきた。また、排水施設の老朽化に伴う漏水等の問題も発生している。今後、老朽施設の更新が課題。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	地区の土木改良要望カ所の中から、準用河川、普通河川及び排水路における浸水被害に関わる要望から、地域の聞き取り調査及び現地調査を踏まえ、改良範囲、優先順位を判断し改良を進めた。		
	後期に向けた課題	単独河川改修事業、排水路整備事業を行うことにより、河川の災害を未然に防止する。また、宅地密集地等の排水路を整備することにより、降雨時等の水害を未然に防止する。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	緊急性の高いカ所から予算の範囲内で可能な必要最小限の改良を実施している。また、延長が長い等の理由で経年工事が必要な箇所は数年間に分割して計画的に進めている。		
	後期に向けた課題	現地調査や測量において必要最小限の範囲の改良としているが、予算上の問題から数年にわたるようなカ所については出来る限り単年度施工となるように計画していきたい。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	準用河川、普通河川、排水路整備は市の管理する施設であり、事業実施にあたっては市の関与は必然であり、地元負担はない。		
	後期に向けた課題	事業実施にあたっては市が積極的に関与していく。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	地区の土木改良要望カ所の取りまとめは地区の役員であるが、事業実施における調査、計画、施工は管理者である市で行うため、実施にあたっての周辺関係者の取りまとめ等を地区役員にお願いしている。		
	後期に向けた課題	地元には関係者及び改修要望の取りまとめ、及び降雨時の状況把握を整理いただく。それに基づき市で現地調査、低コストで最大限効果の出る改良方法及び改良範囲の検討をし、工事を実施する。		
全体を通じて	4年間の振り返り	市民、市内滞業者に対し、降雨時の河川からの災害、排水路からの浸水による被害を未然に防ぐため予算の範囲以内で着実に進めてきた。		
	後期に向けた課題	低コストで最大限効果の出る改良を降雨時の状況等現地を調査する中で検討し実施する。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------